

死の機能—前方後円墳とは何か

日時：2008年10月13日（月・祝） 10:00～15:00

場所：奈良女子大学 大学院F棟5階 会議室

話題提供者：

大久保徹也 （徳島文理大学・考古学）

北條芳隆 （東海大学・考古学）

佐藤弘夫 （東北大学・思想史）

小路田泰直 （奈良女子大学・近代史）

入場無料、資格不問、参加申込不要。

趣旨：日本の国家形成の非常に早い段階に、あの巨大前方後円墳が次々につくられたことを、我々はどう考えたらいいのだろうか。それを考えることが、その後、現代にいたるまでの、日本の国家形成、その持続のあり方を理解する上で、決定的なことのように思える。

あらゆる歴史を近代の創作として切り捨てる考え方もあるが、私たちは逆に近代の非創造性ということにも留意する。近代は何も新たに創り出さない。ただ過去から引き継いだものを改変、利用するだけだ。

したがって近代を理解するためにも始まりは理解しなくてはならないのである。

主催：奈良女子大学21世紀COEプログラム

《古代日本形成の特質解明の研究教育拠点》

連絡先：奈良女子大学COE研究室 0742-20-3779